



下平 悠介

直腸がんは、大腸の一部である直腸にできる悪性腫瘍です。食生活の欧米化などに伴い、直腸がんを含む大腸がんは増加を続け、近年は長野市民病院でも年間約170件の大腸がん手術を行っています。

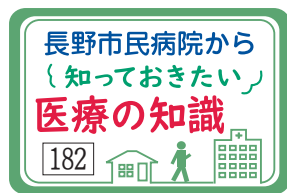
ロボットアームを操作

直腸がんの治療は、院では2013年に導入。前立腺がんや胃がん手術などで実績を重ねてきました。直腸がんに対する本格的な口

～～～

消化器外科科長、ロボット手術センター科長

専門は消化器



進行度（ステージ）に応じて手術、抗がん剤、放射線治療などを組み合わせて行いますが、治療を目指す治療の柱は手術です。手術には従来行われてきた開腹手術と、小さな傷で済む腹腔鏡手術、ロボット手術があります。長野市民病院では県内でも早い時期に腹腔鏡手術を導入し、患者さんの体に負担の少ない治療を目指してきました。

ロボット手術は21年度から始めました。ロボット手術といっても、機械が自動で手術を行うわけではなく、執刀医は、患者さんからやや離れた所に置かれたコンソールと呼ばれるコクピットに座り、レバーやペダルを操作します。その動きが、患者さんの傍らに置かれた「ペイシエントカート」と呼ばれる手術支援ロボットと呼ばれるコクピットに座り、レバーやペダルを操作します。その動きが、患者さんの傍らに置かれた「ペイシエントカート」と呼ばれる手術支援ロボットと呼ばれるコクピット

に座り、レバーやペダルを操作します。その動きが、患者さんの傍らに置かれた「ペイシエントカート」と呼ばれる手術支援ロボットと呼ばれるコクピット

に座り、レバーやペダルを操作します。その動きが、患者さんの傍らに置かれた「ペイシエントカート」と呼ばれる手術支援ロボットと呼ばれるコクピット

に座り、レバーやペダルを操作します。その動きが、患者さんの傍らに置かれた「ペイシエントカート」と呼ばれる手術支援ロボットと呼ばれるコクピット

直腸がんのロボット手術



残す組織を傷つけない

ました。腔鏡手術では実現困難だった「より安定した術野・視野の維持」や「より直感的かつ繊細な操作」が可能になりました。

繊細な動きでより安全に手術

これからも研さんを重ね、患者さんに安心安全かつ質の高い医療を届けていけるように努めていきます。